

報道機関各位

2013年3月11日

## 京都大学×河合塾 合同記者会見のご案内

国立大学法人 京都大学高等教育研究開発推進センター長 大塚雄作  
学校法人 河合塾教育研究開発本部 本部長 前田康宏

この度、京都大学高等教育研究開発推進センターは河合塾教育研究開発本部と提携し、来年度から10年間にわたって、約6万人の高校2年生の成長を追跡調査する「学校から仕事・人生へのトランジション調査プロジェクト（通称「トランジション・プロジェクト」）を推進していくことになりましたので、下記のように会見を行いご報告致します。

本「トランジション・プロジェクト」は、主として京都大学高等教育研究開発推進センターが公益財団法人 電通育英会の協力を得て行った全国大学生調査、社会人対象の振り返り調査の結果を踏まえて実施するものです。全国大学生調査の結果からは、いくら大学が教育改革を進めても、主体的に学ぶ力、豊かな対人関係や活動性、高いキャリア意識などを持たない学生は成長が弱いことが明らかになってきました。また、社会人対象の振り返り調査からは、主体的に学ぶ力、豊かな対人関係や活動性、高いキャリア意識が、職場での力強い仕事の仕方を規定していることが明らかになりました。これらの要因は、大学生になって一から身につけていくことは難しいと考えられるもので、高校までの基礎があってこそのものであります（この振り返り調査で明らかになった内容につきましては、溝上慎一京都大学准教授より報告する予定です）。

そこで、高校2年生を基点とした約10年間にわたる追跡調査では、新しい時代における学校教育（高校・大学・短大・専門学校等ならびにその接続）の役割（学校と仕事・人生との接続）を明らかにするために、本当に高校生のときの学ぶ力や対人関係や活動性、キャリア意識が大学生（あるいは短大専門学校生等）に、ひいては社会人に影響を及ぼしているのか、影響の及ぼし方にどのようなパターンがあるのか、その検証を行います。仮説通りの結果が出てくれば、大学での学習が一定の条件をともなって社会での仕事の仕方につながることで、しかしながらその条件は高校に規定されていると考えられるので、結果として大学教育の限界、高大接続のますますの推進を示唆していくこととなります。

本「トランジション・プロジェクト」は両機関の他に、連携協力者として大学教員、高校教員計40名ほどご参加頂くとともに、実施に当たっては全国複数の教育委員会のご協力を頂く要諦になっております。

この調査は日本で初めて行われる本格的なものであり、社会的な意義を有するものですので、報道機関各位のご参加頂ければ幸甚です。

## 記

日時 平成 25 年 3 月 18 日(月) 15 時～16 時

場所 霞山会館 (かざんかいかん) ( 紅梅+翠竹)

東京都千代田区霞が関三丁目 2 番 1 号 霞が関コモンゲート西館 37 階

TEL : 03-3581-0401 (代表) / FAX : 03-3581-0448

概要 趣旨説明

全国大学生調査、社会人対象の振り返り調査 (先行調査) の結果について

トランジション・プログラムの概要について

調査方法・期間について

調査協力者・協力機関について

質疑

以上

記者会見に関する問い合わせ

学校法人河合塾教育研究開発本部 教育研究部 朝岡

電話 03-6811-5531 FAX 03-5958-1247